

令和7年度（2025年度）第1回東海市環境審議会会議録

1 会議名

令和7年度（2025年度）第1回東海市環境審議会

2 日時

令和7年（2025年）8月5日（火）午後2時から午後3時まで

3 場所

東海市役所 501会議室

4 出席者

(1) 環境審議会委員（13名）

平松 浩子、原 理史、越智 亮、野畑 和夫、久野 辰男、松本 先華、
北村 秀行、佐藤 雅之、小野 久仁陸、三木 大輔、高下 秀一、神野 妃
代、武富 時満

(2) 市長

公務のため途中退席

(3) 事務局（3人）

櫛田生活環境課長兼ゼロカーボン戦略室長、野々部生活環境課統括主任、福
本生活環境課主任

5 欠席者（6名）

委員：酒井 隆嘉、久野 兼幸、酒井 誠、松村 実、澤田 和孝、澤木 眞

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴者

なし

8 会議内容

(1) 委嘱状交付

ア 委員への委嘱状交付（11名）

イ 委員からの自己紹介

ウ 市長挨拶

(2) 東海市環境審議会会長及び副会長の選任について

会長に愛知県地球温暖化防止活動推進センターの原理史氏、副会長に東海市
農業委員会の澤木眞氏が指名推選され、全会一致により決定した。

(3) 概要説明

ア 事務局より説明【資料名：東海市環境審議会・公害防止協議会の概要】

イ 質疑応答

特になし

ウ 会長発言

東海市の環境施策の根幹が記載されている東海市環境基本条例の目的や基本理念の実現することが委員の役割となるため、委員の皆様もご一読いただき、審議会の役割を理解いただければと思う。また、昨年度第3次東海市環境基本計画が策定され、こちらに基づいて東海市の施策が動いているので、こちらもご一読いただければと思う。

(4) 報告事項

ア 事務局より説明【資料名：令和6年度（2024年度）大気測定結果】

イ 質疑応答

㊦ 光化学オキシダントについて

（委員）光化学スモッグ発生の原因をどのように考えるか。

（事務局）工場や自動車などから排出される大気汚染物質が太陽の紫外線を受けて化学反応を起こすことによるものである。

（委員）窒素等煙突から出たものが原因ということか。

（事務局）窒素酸化物等揮発性の有機化合物が日光と反応したことによるものであるため、要因の一つにはなるが全てではない。

（委員）硫黄や窒素の割合を下げることで、光化学オキシダントの発生を抑制することはできないか。

（事務局）方法の一つとは考えられるが、自然界から発生するものもあるため、それを解決することで無くなるものではない。国や県でも調査しているが原因の特定には至っていないという現状がある。また、海外から流入してくるものもあるため、一概にこの対策をしたら解決するというものではない。

（委員）基準値内に入ることにはできないのか。

（事務局）現状では難しいと考えている。

㊧ 降下ばいじんについて

（委員）降下ばいじん量の減少の要因をどのように考えるか。

（事務局）企業の対策や気象条件など様々な条件が重なった結果と考えている。

（委員）黄砂など気象条件の要因も大きいと考えるか。

（事務局）黄砂の流入や風向きなどで大きく数値が変わることもあるため、気象条件も影響があると考ええる。

(ウ) 大気汚染の影響について

(会長) 影響が深刻であれば問題であるが、医療面で影響を感じることはあるか。

(委員) 愛知県の公害認定を受けている方を継続して診察しているが、状態に変わりないため、影響がひどくなったとは感じない。

(会長) 公害防止対策の技術もかなり進んでいるかと思うが、大気汚染対策に対してどのような見解を持っているか。

(委員) 発生源となる場所は重点的な対策が必要であるため、操業方法の見直しや設備対策を進めている。

ウ 会長発言

大気汚染に関しては、東海市の特性として、非常に巨大な工場群からの排気ガスあるいは産業道路を走行する自動車からの排気ガスが、過去に大きな問題となったと考えられることから、監視は重要な案件ということで報告していた。

大気汚染に係る法令等が整備されておらず規制が行われていなかった頃は、対策を行い改善が図られることで、原因を特定しやすかった。現在は、環境保全に係る法令等が整備され、公害防止対策が進展する中において、大気汚染が複合的な要因により発生していることから、原因の特定が難しくなっており、今後はより特定が難しくなると感じている。

また、光化学スモッグは、令和4年度（2022年度）から国で新たな知見などによる協議が進められており、国としての施策の評価があるかもしれないため、その結果を待ちたいと思う。

(5) その他

次回の会議予定について事務局から説明した。